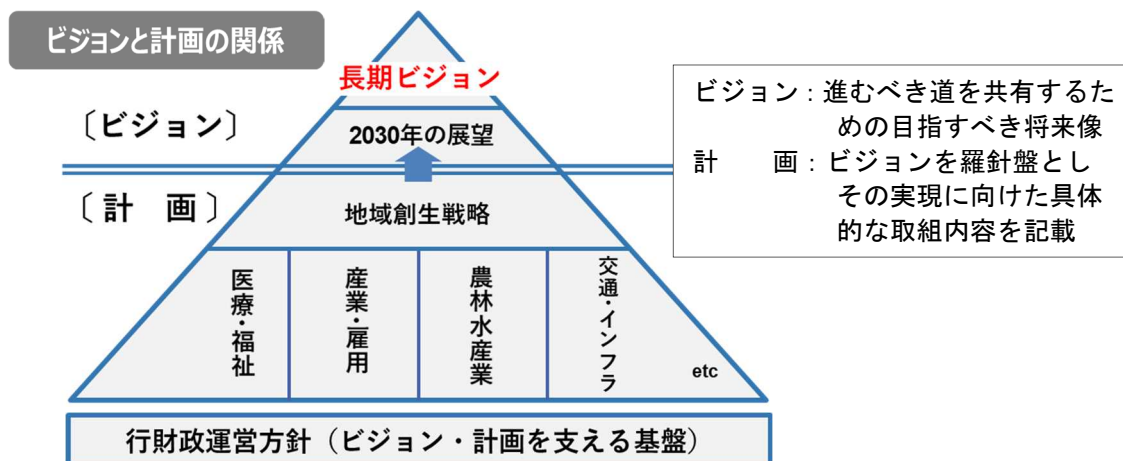


西播磨新地域ビジョン骨子案（事務局案）

I 策定の趣旨等

1 ビジョンとは

- 達成する目標を掲げ、そのために実施すべき行政施策や事業の総量を示す行政主導型の「計画」ではなく、住民自らが望ましい地域の「将来像や夢」を描き、多様な主体が共有する県民だれもの「ビジョン」。



2 策定の趣旨

- 30年後の西播磨地域のめざす将来像を示した現行の西播磨地域ビジョンの策定から20年、改定から10年が経過し、この間、社会情勢が大きく変化。
- 新地域ビジョンは、西播磨地域を取り巻く環境変化や社会潮流、時代の変化とともに顕著になってきた地域の課題を踏まえ、西播磨地域の将来像を県民とともに考え、2050年を展望した共有できるなりたい姿と将来像を実現するための取組みの方向性を描く。
- ビジョンを地域住民・事業者・関係団体・行政等の多様な主体が共有し、その実現に向けてそれぞれの主体が連携して取組みや施策を進めていく。

II 県民意見から見る西播磨地域の現状と課題

1 減り続ける人口

- 西播磨の人口は、1985年の297千人をピークに減少局面に突入
- 2020年の245千人から2050年には153千人まで減少（2020年比38%減）

2 減り続ける子ども

- 合計特殊出生率（1人の女性が生涯に生む子ども数に相当）は1.5前後で推移し、人口維持に必要な水準2.07を大きく下回る（2015年：西播磨1.50、全県1.48）
- 出生数は2000年の2,672人から減少傾向が続き、2020年には1,317人まで減少（2000年比51%減）

- ・未婚化等で出生数が減る一方、高齢化で死亡数が増え、自然減が拡大
(2000年：80人減 → 2020年：1,894人減)

3 人口の高齢化と伸びる寿命

- ・2050年には高齢化率45% (2015年：30%)、75歳以上が人口の4分の1を上回る
- ・県民の平均寿命は過去20年間で男性5.4歳、女性5.2歳伸長
- ・医療技術の進展や健康志向の高まりで寿命はさらに伸びると見込まれ、人口のますます多くを高齢者が占めるようになる。

4 未婚者の増加

- ・1990年以降、生涯未婚者が増え、出生数のさらなる低下
- ・婚活のため若い人の交流の場が必要。子どもの頃から意識改革を促していくことも必要

5 増加する小規模集落と人口の偏在化

- ・管内の小規模集落数は、2018年107集落で、この10年で約2.2倍に増加
- ・同一市町内でも地域によって高齢化・過疎化や若年層の流出差が顕著

6 地域のコミュニティ機能の低下

- ・自治会をはじめ、各種地域団体(婦人会、老人会、ボランティア団体など)への加入率低下や人材不足による組織運営の困難化、解散による地域のコミュニティ機能の低下
- ・ご近所付き合いや近隣同士のコミュニケーション機会の減少、地域活動に無関心な者の増加、世代間交流の減少
- ・地域づくりを担う人材の不足や参加者の減少により、祭りや食などの伝統文化の継承が困難
- ・子どもの減少や学校統廃合等により、子どもが地域と関わる機会が減少し、地域が子どもの社会性を担う場としての機能が低下

7 増える外国人、多文化との共生

- ・2020年の外国人人口は、2013年と比較すると約1.5倍に増加
- ・外国人労働者もこの10年で約2.5倍に増加
- ・県民意識調査の「外国人を見かけたり接する機会が増えていると感じる人の割合」はこの6年で約5倍に増加している一方、「外国人が住みやすいまちになっていると感じる人の割合」は低下傾向
- ・外国人支援ボランティアや在留外国人と地域との交流機会の減少

8 地域資源を活用した交流人口・関係人口の拡大

- ・西播磨地域は、森川海など自然に恵まれた地域であるとともに、歴史文化遺産など観光資源が豊富
- ・2019年度の観光入込客数は6,187千人で、対2010年度比5.4%減少
- ・形態別では日帰り客の割合が9割を占めている
- ・地域の活力を維持するためにも、管内に数多く存在する地域の歴史・自然資源

等を生かした域外からの誘客等交流人口・関係人口の拡大に取り組んでいく必要がある

9 若者の転出

- ・域外への人口流出が続き、特に若者の転出が大きなウエイトを占めている
- ・2000年以降、転出超過が継続（2019年：1,482人の転出超過）
- ・就職・進学・結婚期にあたる15～29歳の転出超過割合が大きく、全体の約84%を占めている（15歳～29歳合計：1,243人（15歳～19歳：156人、20～24歳：760人、25～29歳：327人））
- ・都市部への憧れや高い生活利便性の希求、結婚後の地元定着の減少、大学が通学圏内にない、地元で就職の場が少ない、就職に対する価値観の変化などにより若者が流出し、担い手不足による地域力の低下、地元での労働力不足を招いている

10 多様な働き方の創出・人材の活用

① 高齢者の就業

- ・60歳以上の就業率は2005年以降上昇しており、60～64歳では58.5%、65～69歳では36.6%、70～74歳では21.0%が就業
- ・60歳以上の男女の内、65歳を超えても働くことを希望する者は約7割
- ・高齢者の体力は、15年で5歳程度若返っている
- ・人生100年時代を迎え元気な高齢者が増加していくことから、経済的な就業の場とともに、生きがいつくりの場などの確保も必要

② 女性の就業

- ・2015年の女性の就業率は、5年前と比べて1.5%上昇し、全県平均を下回っている（西播磨平均43.8%、全県平均45.2%）
- ・30代の就業率が低下する傾向にあり、育児や結婚による離職が考えられるため、就業継続のための環境づくりが必要
- ・一方、働く女性の増加により地域活動に関わる機会の減少

11 地域産業の活性化

① 総生産額

- ・2018年度の管内総生産額は10,170億円で、経年で見ると緩やかに上昇傾向

② 製造業

- ・2019年の事業所数は732事業所で、2010年と比べて32%減少
- ・一方、製造品出荷額は18%増加
- ・地元以外の手企業就職傾向や高卒の生産技能職希望者の減少により、若手労働力の確保が困難

③ 商業

- ・2016年の事業所数は2,400事業所で、10年前と比べて30%減少
- ・一方、年間商品販売額は8%増加
- ・事業主の高齢化や後継者不足、コンビニの増加や大型店舗進出、地元での消費低下による小規模事業者の減少・廃業
- ・商店街の衰退により、地域住民がふれあう機会の減少

④ 地場産業

- ・手延素麺、醤油、皮革の事業所数及び生産額は、2010年以降ともに減少傾向
- ・後継者の不足、若者が継続して就ける環境づくり

⑤ 農林業

- ・2020年の基幹的農業従事者は3,099人で、2010年と比べて20%減少
- ・2018年の農業産出額は225億円で、2014年と比べて7%増加
- ・2019年の林業労働者数は188人で、2008年と比べて24%減少
- ・2019年の素材生産量は97,892 m³で、2008年と比べて24%増加
- ・農林業の近代化や組織経営への転換等により、生産量等は増加傾向
- ・一方、農林業従事者の減少、高齢化の進展、担い手不足により、放棄地の増加や山林の荒廃といった問題が顕在化
- ・農林業については、食料や木材の供給という役割だけでなく、食の安全・安心や県土保全、景観形成、地球温暖化対策など公益的機能の観点からもその重要性を見直す必要がある

⑥ 漁業

- ・2018年の漁業就業者数は131人で、10年前と比べて34%減少
- ・就業者の高齢化と新規就業者の減少
- ・地球温暖化や海の貧栄養化などによる漁獲量の減少

12 気候変動、頻発する豪雨

- ・県の気候変動について、最近の約25年間で平均気温14℃以下の領域が減少し、15℃以上の領域が拡大
- ・地球規模の気候変動により、日本の年平均気温は2050年までに約1℃上昇。県内でも猛暑日や熱帯夜の増加、さらなる局地的大雨の頻発が想定される。
- ・全国の1時間降水量80mm以上の年間発生回数は平均18.1回と、約30年前と比べて約1.7倍に増加
- ・新しい技術を活用した地域のエネルギー自立とともに、環境を優先するライフスタイルなど自身の生活を変えていくことも必要

13 環境保全の取組

- ・地球温暖化の進行や生物多様性の危機など地球規模での環境問題が深刻化している一方で、ゴミの分別やリサイクル、節電など住民の環境保全の取組みが進展
- ・H30の1人1日当たりのゴミ排出量は929gで、10年前と比較して7%減少
- ・一方、県民意識調査の「自然環境を守るための取組や再生可能エネルギー利用に取組んでいる人の割合」は、平成23年以降大きく低下
- ・県民意識調査「山林や川、海など自然環境を守るための取組に参加している人の割合」(H23: 67.9% → R1: 26.7%)
- ・県民意識調査「再生可能エネルギーを利用する取組に参加している人の割合」は(H23: 35.3% → R1: 19.8%)

14 自給が求められる食料とエネルギー

① 食料自給率

- ・2019年度の管内の食料自給率は、管内5市町が全県より高水準
- ・管内市町では佐用町が一番高く、県下でも南あわじ市、篠山市に次いで3番目に高い(佐用町95.9%、全県14.8%)

② 再生可能エネルギー自給率

- ・2019年度の管内の再生可能エネルギー自給率は、管内全市町が全県より高水準
- ・管内市町では佐用町が一番高く、県下でも淡路市に次いで2番目に高い（佐用町101.5%、全県14.9%）

15 空き家の増加

- ・人口減少が進む集落において空き家が増加
- ・管内の空き家数及び空き家率は一貫して増加しており、空き家数は10年前と比べて17%増加（2008年15,020戸 → 2018年17,530戸）
- ・放置され荒廃する空き家も増えており、倒壊、治安低下の懸念、集落景観の悪化など住民生活にマイナスの影響

16 放棄される田畑や山林の増加

- ・過疎化・高齢化により農林業の担い手が減少し、耕作放棄地面積は、この10年間で1.4倍に増加
- ・農地や森林の持つ公益的機能の観点からも担い手の確保が必要

17 増える高齢者世帯

- ・2055年には世帯総数の約60%が高齢者世帯、約17%が高齢単独世帯の見込み
- ・コミュニケーション機会の減少による他者との接点を持たない孤立化やゴミ出し、買い物などの日常生活困難者への目配りが必要

18 買い物・交通等生活基盤の確保

- ・大型店舗進出による近隣店舗の減少やスーパー撤退等により、一人暮らし高齢者等の買い物難民の増加
- ・公共交通等移動手段の充実、交通網の整備による地理的隔離の改善

19 医療・介護体制の確保

- ・一般病床数及び療養病床数は、県平均を上回っているものの、人口10万人あたりの地域別医師数は、西播磨が163.5人で最小
- ・特に産科・産婦人科医師数の減少が顕著（2004年比26.7%減）
- ・後期高齢者の人口増加に伴い、R2年の要介護認定者数は15,937人に増加（H22年比32%増）

20 災害に対する備え

- ・30年以内に南海トラフ地震が発生する確率は70~80%程度
- ・2019年の兵庫県住宅再建共済制度の加入率は18.5%で全県(9.6%)を上回り、2008年以降増加傾向（2008年：15.8% → 2019年：18.5%）
- ・県民意識調査の「防災訓練等への参加や災害に対する自主的な備えをしている人の割合」は緩やかに増えているものの、その割合は50%以下

Ⅲ 基本姿勢

～光と水と緑でつなぐ 元気・西播磨～

光…人・地域・産業がキラリと輝いている
 水…森・川・海が美しく連なっている
 緑…森林・農地・都市がいきいきと彩られている

光と水と緑が地域のすみずみまでネットワークを形成し、
 西播磨の地域全体が元気に躍動することをめざす。

Ⅳ 地域のなりたい姿(地域の夢)と目標像(実現するための取組の方向性)

なりたい姿(地域の夢)	目標像	
第1の夢 つながる地域の絆西播磨 ～地域でともに支え合う繋 がりのあるまち～	1	地域みんなで <u>子育て</u> を応援するまち
	2	未来を創る人づくりのまち
	3	<u>ほどよいおせっかい</u> で縁を結ぶまち
	4	あらゆる <u>多様性</u> を受け入れるまち
第2の夢 元気な西播磨 ～地域の強みを活かした賑 わいと活力のあるまち～	5	地域の強みでみんなに選ばれるまち
	6	いつか戻りたい・ずっと住み続けたいまち
	7	誰もが自分らしく活躍できるまち
	8	<u>地域とともに成長する産業</u> を育てるまち
第3の夢 自立の西播磨 ～地域で循環するまち～	9	自然と共生するまち
	10	地産地消でなんでもそろうまち
	11	遊休資源を知恵と工夫で生かすまち
	12	未来をひらくまち “播磨科学公園都市”
第4の夢 安全安心の西播磨 ～誰もが安心していきいき と暮らせるまち～	13	いきいきと暮らし続けられるまち
	14	誰もが <u>困らず移動</u> できるまち
	15	安心できる健康・福祉・地域医療のまち
	16	防災力の高いまち

第1の夢 つながる地域の絆西播磨 ～地域でともに支え合う繋がりのあるまち～

目標像1 地域みんなで子育てを応援するまち

(取組の方向性)

家庭・学校・地域・職場などさまざまな主体が協力し、子育てを地域全体が応援する環境づくりに取り組み、誰もがここで安心して子どもを産み育てたいと思える地域をつくろう。

〈主な県民意見〉

- ・学校以外のところで地域がいかに深く関わるか、地域で子どもを育てることが大事。
- ・地域のコミュニティを活性化させ、共助により若者（特に子育て中の女性）が安心して働ける地域にしたい。
- ・地域に愛着を持つよう地域の子どもは地域の大人が見守り育てるといふ、数十年前は普通であったことが「現在～これからの時代」に必要。
- ・地域行事は子どもが多く参加するように取り組む。コミュニティスクールとして学校、家庭、地域が一体となり、多くの大人が総がかりで地域の子どもを育てていく仕組みを地域に作っていくことが大切。
- ・子育て支援を地域の課題として捉え、若者が安心して住める地域社会の構築が必要。
- ・子育てと仕事の両立支援や地域全体で子育てを支える仕組みづくりが必要。
- ・子どもを安心して産めるまち、安心して子育てできるまちというのが、どの年代にとっても暮らしやすいまちに繋がる。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・日常的に挨拶を交わすなど、地域全体で子どもを見守る。
- ・子育て世代が悩みを相談したり情報共有できるネットワークをつくる。
- ・子どもが楽しめる遊び場をつくる。
- ・子育て応援企業に参加する。
- ・子育てを模擬体験する。
- ・結婚や子育ての経験を次の世代に伝える。
- ・高齢者も保育に参加し子育て世代を支える。 など

(西播磨の課題)

- 2 減り続ける子ども
- 6 地域のコミュニティ機能の低下

目標像2 未来を創る人づくりのまち

(取組の方向性)

ICT 技術等の活用によりどこに住んでいても質の高い教育が受けられる環境づくりを進めるとともに、学校や地域、地元企業などさまざまな主体が協力し、地域ぐるみで特色ある教育を展開し、ふるさとに愛着や誇りを持つ若者を育み、生まれ育った地域を守り支える担い手を育てよう。

〈主な県民意見〉

- ・スポーツで頑張っている選手は、地域が積極的に関わり、地域の愛情をたくさん貰っているような気がする。地域に誇りを持ち、地域を背負って発信してくれる子どもを一人でも多く増やしたい。
- ・言われたことは完璧にやるが、自由な発想ができない子どもが増えていと感じる。
- ・教育の機会と質の確保ができるか不安を覚えており、地方の教育環境やデジタル教育環境の整備が必要。
- ・ICT化により地域格差を埋められ、西播磨から出て行かなくても高度な教育が受けられるようになってほしい。
- ・自然の中で活動し、自然を愛し、思いやりのある青少年を育て、地域を牽引する社会人を育成する活動が大切。
- ・地域の活動に大人、子ども問わず、積極的に参加できる環境づくりや、自他ともに考えられる人を育てる教育が必要。
- ・目指すべき姿は、子育てしたいと思われる地域、東京並みの教育水準や学び方の自由度が高い地域。次世代の人材を育成する上でも、子育てや教育が大事。
- ・子どもの感性を養うことが自由な発想につながると思うので、たくさんの自然を教育の中にどう取り入れるかが大切。自分の目で見て触って感じられる、そういう体験の場を大切にしたい。
- ・将来を任せられる人材づくりが必要。そのために、学校教育を見直すことから始めるべき。人間味のある子どもたちを育てるには、自然環境を利用して遊ばせ、心の広い考えの持てる子どもづくりが必要。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・学校運営に地域住民も積極的に参加する。
- ・自然・仕事・文化等の体験学習を通して子どもの感性や社会性を育む。
- ・地域の歴史や資源、伝統文化など、ふるさとの良さを若者へ伝える。
- ・地域行事や地域づくり活動への参加を若者にも呼びかける。 など

(西播磨の課題)

- 2 減り続ける子ども
- 6 地域のコミュニティ機能の低下

目標像3 ほどよいおせっかいで縁を結ぶまち

(取組の方向性)

「地域の課題は自分たちで解決していく」という共助の意識が根付き、多様な価値観が尊重され、人と人との温かいつながりを深め、地域のコミュニティ機能を再生させ共に支え合う地域をめざそう。単独集落では解決できない課題は、近隣の集落が連携し助け合いながら解決していくことができる地域をつくろう。

また、若者が結婚に前向きになるよう様々な機会を捉え意識の醸成に取り組むとともに、地域全体で男女の出会いや縁結びを応援する取組を広げよう。

〈主な県民意見〉

- ・西播磨の人は温かく人がいい。支え合いの基盤である温かい「おせっかい文化」を受け継ぎ、地域で支え合って生きていくまちになってほしい。
- ・公助に頼りすぎず共助によって未来を拓く、新しい田舎を目指す。
- ・ご近所や地域のことを大切に考える人が今よりも増えてほしい。
- ・人口減少について、結婚しない自由や子どもを産まない自由がある中、有効な手段が少ないと思うが、子どもの頃から意識改革を促していくことが必要。
- ・若い世代の婚活が全体的に必要な。最近では、未婚化・晩婚化が相当増えている。青少年活動事業など若い人の交流の場が必要。
- ・高齢化率 55%を超える小さな地区で働いているが、その地区が好きで「おせっかいな人」が多い。しがらみとも言えるが、これからの時代に必要。物をくれたり、子供の面倒を見てくれたり、若い世代が抱えている悩み、延長保育が短くフルタイムで働けない問題を、おせっかいな人が担うことにより解決するのではないか。
- ・人と人のつながりがあり、地域住民が協力し合える地域になってほしい。
- ・一人一人の取り組みが地域を支えるという自治意識が高まってほしい。
- ・誰もが地域活動に参加し、ご近所のつながりを持ち、助け合う社会が望ましい。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・男女の出会いや交流の機会をつくる。
- ・地域活動に取り組む団体同士が交流し、ネットワークづくりを進める。
- ・年齢や性別等に関係なく、地域活動に参加していく。
- ・地域自治を担う新たな組織を作り運営する。
- ・地域づくりに参加しやすい仕組みを住民で話し合う。
- ・校区単位など広域的なネットワークによる担い手を確保する。
- ・地域に変化を生み出す関係人口も巻き込む。 など

(西播磨の課題)

- 1 減り続ける人口
- 4 未婚者の増加
- 5 増加する小規模集落と人口の偏在化
- 6 地域のコミュニティ機能の低下

目標像 4 あらゆる多様性を受け入れるまち

(取組の方向性)

人口減少などの時代の変化に合わせて、自治会組織も運営方法を柔軟に見直そう。また、多様な価値観や異なる文化を持つ人への理解と共感を深め、地域に興味を持っている外部の人や外国人など多様な人を受け入れる地域をめざそう。多様な人が地域の新たな担い手として活躍し、地域の持続と活性化につながっている地域をめざそう。

〈主な県民意見〉

- ・時代により変化する価値観に合わせ、慣例や伝統を若者たちに受け入れられるように変えていくことも必要。若者・子育て世代に魅力ある住みやすいまちにしたい。
- ・地域も時代に合わせて変革は必要。従来のもを守りつつ、価値観の多様化に合わせて新しいものを取り入れるような寛容さ、チャレンジも大切。
- ・田舎は閉鎖的で外部の者を受け入れない風潮があるので、地域で変えていかなければならない。
- ・活気に満ちた地域社会の実現には、地域に住まうあらゆる世代が個々で世代間ギャップや考え方の違いを認識し、社会情勢の変化を柔軟に受け入れる必要がある。地域住民が互いの意見・立場を尊重しながら、共助が地域社会には必要。
- ・地方の人口減対策として、外国人の活用もポイントになる。いかに外部から人を呼び込んでくるかが課題。人がいないと消費も回らないし、経済も回っていかない。
- ・外国人は自国の文化をそのまま持ち込んで就業するため、地元採用者との調和を図っていく必要がある。
- ・人口減イコール悪ではない。人口が減っても豊かに暮らし続けられる地域を守っていくために、自治会や地域運営組織は、人口が減ってもやっていけるように事業や体制を見直すなど変化していくことが必要。
- ・自治会運営に子どものアイデアを取り入れるなど、子どもを巻き込んだ地域づくりも必要。地元愛の醸成にも繋がる。
- ・自治会組織への女性の参画など、自治会運営も変えていく必要がある。
- ・農林コミュニティの分野では、外国人や興味を持っている地域外の者が短期でも自由に出入りできるコミュニティ、それを許容していく地域側の態度や認識の変革が必要。
- ・地域、産業等多方面で、「昭和的な社会の形(中央集権、行政主導、上意下達、男性重視、年長者重視、大都市大企業志向、拡大再生、専業主婦等)」を大きく変える必要がある。
- ・外部人材や外国人の活用・共生がコミュニティ維持の突破口にもなる。
- ・外国人との関係性は、様々な分野でこれから相当重要になってくる。多文化を共有し外国人とのコミュニティとしての繋がりを創っていく必要がある。

- ・地域が地域を支えるのは限界が来ている。外部人材も活用した新しいコミュニティづくりの必要性を感じている。ボランティアでは継続困難なため、地域で儲ける仕組みづくりも必要。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・地域団体の役員やリーダー層に多様な人材を積極的に登用する。
- ・多様な背景を持つ人の交流の機会を持ち、それぞれの文化への理解を深める。
- ・地域の担い手として、外国人にも地域活動に参加してもらう。
- ・地域の情報を多言語対応で発信する。など

（西播磨の課題）

- 5 増加する小規模集落と人口の偏在化
- 6 地域のコミュニティ機能の低下
- 7 増える外国人、多文化との共生

第2の夢 元気な西播磨 ～地域の強みを活かした賑わいと活力のあるまち～

目標像5 地域の強みでみんなに選ばれるまち

(取組の方向性)

豊かな自然や美しい町並み、魅力的な食・歴史・文化など、特色ある資源を地域に対する誇りや愛着を生む源として認識し、地域全体で守り引き継いでいく取組を広げよう。

それらの資源の強みをさらに高め活用することで、その魅力に惹きつけられて観光客や移住者など地域外から人が集まり交流と活気を生み出す地域をめざそう。

〈主な県民意見〉

- ・西播磨は自然を感じられる一方で、都会的な便利さもある。ある程度便利で自然がある生活がいい。
- ・田舎であることを自慢できる田舎になってほしい。みんなが地域のいいところを3つは言えるまちにしたい。
- ・個人も地域もそれぞれが発信力を高め、守りではなく攻めの姿勢で西播磨の魅力を発信していけば、地域外からもっと人を呼び込める。
- ・西播磨には、歴史や風土を背景とした日本遺産や伝統的なまち並み、伝統文化が多く存在する。古き良き西播磨の個性を守りながら、新しい時代にあったまちづくりをめざしていく。
- ・西播磨は、醤油、味噌、日本酒など発酵食の宝庫。この豊かな食文化を受け継ぎ、発展させていく人材を育てていきたい。
- ・揖保川と千種川の清流は、子どもたちの良い自然体験の場となっている。こうした多自然地域ならではの良さを引き継いでいかなければならない。
- ・最近、都会の人から見れば牡蠣は魅力で、人を誘致する武器になることを知った。強みを伸ばすにはどうしたらいいかを考えることが大事。地域の特色を生かせるような取組が重要である。
- ・地域資源（観光資源）を活用し、1年を通じて人が何度でも訪れたい魅力あるまちづくりが必要。
- ・人口が減らない市町村は自分のまちの特徴をよく掴んで、その特徴を最大限に生かした取組をしている。魅力あるまち並み等で人を呼び込み、観光産業が活性化してほしい。
- ・SNS等で情報発信はしているが、地域の認知度が低い。重要伝統的建造物群保存地区に指定された観光資源や、海、山などを、マスコミとのタイアップ等により知名度を上げる取組が必要。
- ・農村地域に居住する人を増加させるため、地域の魅力を知ってもらうことから取り組む必要がある。また、受け入れ態勢を整えることも大切。
- ・高速通信網が都会と同様に整備され、テレワーク技術の発達により企業のオフィス分散などで利用される地域になってほしい。

- ・テクノロジーの進化により都市部でなくても仕事ができるという前提で、地方の住環境の整備が必要である。企業が移ってこることができれば、人口流出の一番の歯止めになる。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・地域住民自らが新たな地域資源を発掘し、SNS等で地域外や海外に向けて情報発信する。
- ・伝統文化体験や農村体験など地域資源を活用した体験型観光に取り組む。
- ・ワーキングホリデーやWWOOF*などを積極的に取り入れ、地域外との交流が盛んになる取組みを進める。
※ WWOOF (ワフ)とは、無給で「労働力」を提供する代わりに「食事・宿泊場所」「知識・経験」を提供してもらうボランティアシステム
- ・ボランティアガイドへ参画する。
- ・自然やまち並みを活かした芸術祭を開催する。 など

（西播磨の課題）

- 8 地域資源を活用した交流人口・関係人口の拡大

目標像 6 いつか戻りたい・ずっと住みたいまち

(取組の方向性)

若者の雇用の場の確保とともに、幼い頃からふるさとへの誇りや愛着を育て、地元に住み続ける若者、関わり続ける若者が増える地域をめざそう。テレワークなどデジタル技術の発達により、働く場所や住む場所の自由度が増すことで、地方の暮らしに関心のある人々を全国から呼び込むため、西播磨での暮らしの魅力の情報発信によりUJIターンを促進し、西播磨へ移住する人を増やそう。

〈主な県民意見〉

- ・古民家をもっと活用すべき。田舎暮らしに憧れた人の移住が増えて、農業、林業が盛んになってほしい。
- ・時間に追われず、物にとらわれず、自分に合ったもので自由に暮らせる、帰りたくなる故郷になってほしい。
- ・仕事の在り方が変わり、住むところの自由度が増し、都市部で無理をして生活している人たちを西播磨に引き入れることができれば、人口の下げ幅は抑えられるのではないか。交通の便が良いところ、自然も豊か、子育て環境等、地域の良さをPRしていければよい。
- ・いま住んでいる子供が大人になっても、地元に住みたいと思えるまちになってほしい。
- ・若者が住みやすい環境づくりが必要。一旦離れてもまた戻りたいと思えるような、誇りを持てる、魅力ある地域になってほしい。
- ・UJIターンの促進について、兵庫の子どもが県外の大学から県内に戻ってきたら、3年間家賃を無料にするなど、就職活動の時から地元を意識させることが大事。
- ・子どもが羽ばたくことはいいことだが、地元に戻ってこようと思う選択肢を考えられるようにしておく必要がある。
- ・テレワークの定着により都市部からの移住が増え、若者が出ていかないまちになってほしい。安心して働け、定着でき、働く環境が整備された場所を選ばない働き方が地方の活性化につながる。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・若者に地元企業の良さを紹介する。
- ・地域外の大学に進学した若者に地域の情報を発信し繋がりを持つ。
- ・就農希望者へ農地や空き家を提供する。
- ・UJIターンによる移住希望者を支援する（移住相談、先輩移住者との交流、空き家の紹介など）。
- ・移住者を温かく受け入れる雰囲気地域をつくる。 など

(西播磨の課題)

- 1 減り続ける人口
- 9 若者の転出

目標像 7 誰もが自分らしく活躍できるまち

(取組の方向性)

年齢や性別、障がいの有無などに関わりなく、誰もが個性と能力を発揮しながら活躍できる場があり、いつまでも生涯現役でやりがいを持って自分が希望する社会参加や働き方が見つかる地域をめざそう。

また、家庭や地域、職場において、男女ともに働ける環境づくりを進め、「性別などによる役割分担意識」のない地域をめざそう。

〈主な県民意見〉

- ・子育て支援員という制度があるが、保育士不足のため、元気な高齢者が保育に参加できる仕組みがあればよい。
- ・子育て中のママさんからは、「働く場所がない、子ども連れでも働けるところ、2時間だけでもいいから働きたい」という意見が多い。新しい働き方改革として、そういった人の働く場も提供できればいい。
- ・テレワークの促進等により、一極集中ではなく地元において生活・雇用が成り立つ環境が実現してほしい。人が出て行かなければ地域ももっと活気づく。
- ・ICTの発達により、どこでも働けるようになることで、若者が地域に残り、豊かな自然を活かした事業で新たな雇用を生み出している。
- ・ICTを活用して、高齢者が職に就けるような環境が実現してほしい。
- ・障がい者は福祉以外の分野でも活躍できる十分な能力があるので、もっと積極的に活かすべき。
- ・農福連携など普段交わらないところが交わることによってイノベーションが生まれる可能性がある。横断的な取組み、協働の取組みが大事。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・障がいのある人が適正や能力に応じて働ける環境をつくる（マッチングのしくみづくりなど）。
- ・農福等の異業種連携を促進する。
- ・地域住民主体でコミュニティビジネスに取り組む。
- ・仕事と子育てが両立できる柔軟な働き方に取り組む。
- ・性別に関わらず育児休暇を取得しやすい環境づくりを進める。
- ・高齢者が経験を生かして積極的に社会参加する。
- ・元気高齢者が子育てや介護ボランティアに参加する。
- ・生きがいづくりの場を創出したり参加する。
- ・多様な暮らしができる自分らしい働き方を見つける。 など

(西播磨の課題)

10 多様な働き方の創出・人材の活用

目標像 8 地域とともに成長する産業を育てるまち

(取組の方向性)

地元企業のブランド力や日本を代表する地場産業、特色ある農林水産物、豊かな森林などの地域資源を生かした産業を持続させるとともに、地域の特徴を生かした事業者や就農者等のさらなる成長を地域全体で進めよう。

また、空き店舗の活用などまちづくりと一体となった商店街の再生や創業・起業しやすい環境づくりを進め、身近な地域商業の賑わいを取り戻そう。

〈主な県民意見〉

- ・ 龍野は「レザー」「そうめん」「しょうゆ」の3つの日本一があるまち。この地場産業とまち並みを掛け合わせれば、地域を盛り上げることができる。
- ・ 多様な生き方が認められ、西播磨発のベンチャー企業が多く誕生してほしい。
- ・ 今ある地域資源を活用し、世界に通じるものを生み出し、大企業が拠点を置きたいと思える地域になってほしい。
- ・ 地域で農業の価値観を高め、自分たちで新たな農業の担い手を育成していきたい。
- ・ 観光や食を切り口にアピールし、交流人口の増加や定住のきっかけになれば、地域産業の活性化にも繋がる。
- ・ 広島のもみじ饅頭のような地元の材料を使った地域の特産品を開発し、地域に人を呼び込みたい。
- ・ 比較的恵まれた自然と交通の利便性を活かした住・勤近接、子育て世帯の定住増に伴い商店やニュービジネスが創業・立地してほしい。
- ・ 地域の活性化や賑わいづくりのため、創業支援や起業促進策の拡大により、新たな人が移住や起業しやすい環境づくりが必要。
- ・ 既存事業所の経営支援や事業承継支援、新規創業支援を継続的に行っていくことが必要。
- ・ 商店街で商売をやっているが、7~8割が閉店し、シャッター通りになっている。住居併用店舗で流動性が低く、新しい事業への活用が難しいが、何らかの対策が必要。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・ 地場産業の地域ブランド力の強化や技術を継承する人材の育成を進める。
- ・ 創業・起業セミナーや異業種交流会を開催して人材を確保する。
- ・ 創業予定者が情報共有できるコミュニティを形成する。
- ・ 新規就農者を積極的に受け入れる。
- ・ 農林水産物のブランド化や新商品の開発、6次産業化を進める。
- ・ 空き店舗等を活用し、まちなかの再生・活性化を図る。 など

(西播磨の課題)

11 地域産業の活性化

第3の夢 自立の西播磨 ～地域で循環するまち～

目標像9 自然と共生するまち

(取組の方向性)

水と緑に恵まれた西播磨の豊かな自然環境の大切さを認識するとともに、森林・農地が持つ多面的な機能（食料や木材などの自然の恵みだけではなく、自然災害を防いだり、癒やしや学習の場など）の維持や生態系を守る取組、自然から得られる資源を地域で有効に活用するなど、自然環境を守り育てながら人と自然が共生した持続可能な地域をめざそう。

〈主な県民意見〉

- ・西播磨は、森川海など豊かな自然に恵まれ、自然災害が少ない魅力がある。
- ・この豊かな自然の恵みを西播磨地域全体で守っていく必要がある。
- ・人と自然が調和し、生き生きと健康で暮らせるまちになってほしい。
- ・豊かな自然の中で、大地の恵みを活かしのびのびと子育てしていることが新たな魅力となり、西播磨で子育てする人が増えてほしい。
- ・AIとかロボットとかスマートファクトリーづくりが進むほど、人間は心のバランスが大事で、自然と一緒に大切になる。自然を日常生活に取り入れるのが、これからの豊かさだと思う。
- ・自然と共生し、豊かな自然や田園風景を後世に残したい。
- ・恵まれた環境の特性を生かし、水産物や自然を次の世代に残しつつ、若者が住み続けることができる環境が実現してほしい。
- ・過疎地ならではの手を入れない自然の活用を模索すべき。野生動物の保護区等を取り入れながら、ジビエ生活体験地域を目指す。
- ・豊かな自然とは、森が生活の一部になるなど日常的に自然と接していること。森と地域住民との距離が近くなるような仕組みづくりも価値がある。森と住民との距離がより近くなれば、豊かな暮らしが実現する。
- ・Uターン者は雇用面だけでUターンを決めるのではなく、自然と共に育ったなど子供の頃のいい思い出や環境も地元に戻る決断をする重要な要素。
- ・ごみの分別を促進、減量化、資源ごみの再生等により、環境問題に取り組む。
- ・林業従事者の減少や森林資源の利用度減退により山林の荒廃が進んでおり、保全・再生させる必要がある。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・プラスチックごみの削減に向けた意識を啓発する。
- ・環境に配慮した製品を使用する。
- ・ごみの回収や水質の適切な管理等できれいで豊かな海の再生に取り組む。
- ・シカやカワウなどの有害鳥獣を駆除活動に参加する。
- ・環境保全活動団体と連携した環境保全活動に参加する。
- ・自然を生かした子どもとの交流活動や身近な自然とふれあう環境学習を開催。

(西播磨の課題)

- 12 気候変動、頻発する豪雨
- 13 環境保全の取組

目標像 10 地産地消でなんでもそろうまち

(取組の方向性)

健康志向や食へのこだわりが高まる中、西播磨ならではの伝統的な食文化や食材の大切さ、食を支える農林水産業の大切さを認識し、郷土料理や地元産品を使用した地産地消をさらに進めよう。

また、地域全体で徹底した節電・省エネに取り組むとともに、地域の空き空間や資源を生かして再生可能エネルギー（太陽光・小水力・バイオマスなど）を生み出し、温室効果ガス排出実質ゼロのカーボンニュートラルの実現に貢献するエネルギー自給の高い地域をめざそう。

食料自給やエネルギー自給などの地産地消を進めつつ、近接する他圏域とも交流を進め、さらに循環を活発化させよう。

〈主な県民意見〉

- ・生活に必要な作物を自ら作り、時には狩猟を行い、収穫の喜びを味わう、自給自足の生活ができる地域になってほしい。
- ・地域ブランドを大切にし、地元の安全で美味しいお米や野菜を地元で消費する環境が持続しているまちになってほしい。
- ・地産地消の発展に取り組むことが大切。
- ・海が環境が蘇り豊かな海に再生されることにより、新鮮な魚介類が提供でき、食の安全性の確保・雇用の創出も図れる。
- ・自然環境や周辺景観に配慮した循環型社会や低炭素社会への取り組みが必要。
- ・Uターンしても働く場がないなど、雇用の確保が重要。西播磨は山林が多く日本でも有数の施設がある。これらを上手く活用することで、森林資源がお宝に変わる可能性がある。森林資源を活用した地域にお金を落とせる仕組みづくりが大切。
- ・キーワードは「循環」。兵庫県の中で西播磨のメリットは岡山に近いこと。小さな地域内での循環、グローバルな循環、県域にこだわらない岡山との循環等、考えられることはたくさんある。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・家庭や学校給食などで地元食材を積極的に利用する。
- ・地元の農林水産物を使ったアイデア商品を開発する。
- ・料理教室や料理コンテストを開催する。
- ・太陽光・小水力・バイオマスなどの再生可能エネルギーを使用する。
- ・環境負荷の低い移動手段を選択したり、公共交通を利用する。 など

(西播磨の課題)

14 自給が求められる食料とエネルギー

目標像 11 遊休資源を知恵と工夫で生かすまち

(取組の方向性)

耕作放棄地や空き家、空き施設などの遊休資源や森林などの豊かな地域資源を有効活用し、地域外住民との交流や賑わいづくり、食料品・日用品販売などの生活関連サービスや再生可能エネルギーを活用した事業化など、地域内で生産と消費活動が循環する経済活動のしくみをつくるなど、持続可能で自立した地域をめざそう。

〈主な県民意見〉

- ・自然の恵みを活用して、農林水産業でお金を稼げる地域にしたい。地域のブランドを高め大切にしたい。
- ・多自然地域でも豊かな資源を活用し、自立ができるような仕組みが必要。
- ・地域資源を活用した地域で売る、稼ぐ仕組みを成立させる。
- ・市内に多くある空き家を活用し地域の活性化につなげることが大切。
- ・廃校をドローンの発着拠点にするなど、より発展的な廃校の有効活用が必要。
- ・町内に唯一あった小売店が閉店し、住民が食料品の買い物に困っている。同じような店舗の開店を望む声が多く、住民が自主運営による空き施設を活用した店舗開業を模索している。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・空き校舎や空き店舗などの遊休施設を地域の交流拠点や買物店舗、宿泊施設として活用する。
- ・地域住民が主体となり地域の課題をビジネスの手法（コミュニティビジネスなど）で解決する。
- ・農機具など高価なものは地域で共有する。 など

(西播磨の課題)

- 15 空き家の増加
- 16 放棄される田畑や山林の増加

目標像 12 未来をひらくまち“播磨科学公園都市”

(取組の方向性)

産官学の連携により SPring-8 など西播磨の誇る科学技術基盤を成長分野の技術革新や中小企業のものづくりに生かす取組をさらに進めていこう。新しい技術を用いた生活支援サービスの実証試験を播磨科学公園都市内で行うなど、住み慣れた地域で生活を維持していくための新たな地域モデルを構築する取組を進めよう。

〈主な県民意見〉

- ・ドローン配送や自動運転技術の積極的な活用など、播磨科学公園都市を核に最先端技術を活用し社会課題が解決した暮らしやすいまちになってほしい。
- ・播磨科学公園都市への企業や研究機関の誘致、都市機能の充実が必要。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・SPring-8 や X 線自由電子レーザー施設 SACLA など、世界的な科学技術基盤を活用する。
- ・先端科学技術を用いた生活支援サービスの実証試験に積極的に参加し、新しい技術への理解を深める。 など

(西播磨の課題)

11 産業の活性化

第4の夢 安全安心の西播磨

～誰もが安心していきいきと暮らせるまち～

目標像 13 いきいきと暮らし続けられるまち

(取組の方向性)

ICT 機器や介護ロボットなども活用しながら、マンパワーによる見守りや日常生活支援、介護など支え合いによる安全安心のコミュニティが実現し、困った時には誰かが手を差し伸べ、弱い立場にある人を取り残さない、高齢者も障がいのある人も誰もが住みなれた地域で最後まで安心して暮らせる地域をめざそう。

また、地域でパトロールを実施するなど、防犯意識や交通安全意識を高め、家庭や学校、地域が連携して犯罪や事故などのない安全な地域をめざそう。

〈主な県民意見〉

- ・ IT 技術を活用し、子育てや教育、医療、交通など、生活に不安がなく暮らせる人に優しいまちになってほしい。
- ・ 地域でいつまでも健康で暮らせる、誰も取り残されない地域づくりについて、どうすればよいか考えている。これからはミニマムな単位で子どもから高齢者まで一括して見ることができるチームを、どれだけ地域の中にちりばめられるかという発想が必要。
- ・ 介護保険制度等の施行により、高齢者の日々の暮らしの場が変わりつつある中で、人と人との繋がりのある人間らしい生活や、安心して暮らせる地域について今一度考え直さなければならない。
- ・ 犯罪や非行のない明るい社会はすべての人々の願いであり、次代を担う子ども達が健やかに育つ地域社会が安全安心な社会づくりの基本である。
- ・ 安心・安全な暮らしが一番、時代が進んでも人が生活をする上で最低限のことである。
- ・ 災害時や買い物支援など、高齢者が安心して暮らせるように、本当に困っている人の接着剤になり、行政との潤滑剤になれる人材が必要。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・ 住民同士で日常的に声かけや見守り活動を行う。
- ・ 買い物・通院など日常生活の移動が困難な人を支援する。
- ・ ゴミ出しなど日常の困り事を近所で助け合う「ご近所ボランティア」に取り組む。
- ・ 人との会話や食事を楽しむなどいつも繋がりを感じられる居場所をつくる。
- ・ 地域ぐるみでの防犯パトロールの実施。 など

(西播磨の課題)

- 3 人口の高齢化と伸びる寿命
- 17 増える高齢者世帯

目標像 14 誰もが困らず移動できるまち

(取組の方向性)

道路や鉄道などこれまで整備されてきた社会基盤の維持と活用を図りながら、交通手段の利便性向上や道路ネットワークの整備、将来に向けた自動運転の基盤整備を行うとともに、移動が困難な人に対する支援も充実し、買い物や通院などどこへでも不便なく移動できて、交通事故もない誰もが安心して外出できる地域をめざそう。

〈主な県民意見〉

- ・ IT 技術の発達で地域にあった形の充実した新たな公共交通システムが構築される。
- ・ 特に高齢化の進んだ郡部の輸送手段の確保が必要。
- ・ 市内の公共交通機関はバスしかないため、コミュニティバスの維持が必要。また、バスの運行システムの利便性を高め、多くの人が利用できる仕組みへの改善も必要。
- ・ 買い物、病院に不自由なく行けるようになってほしい。
- ・ 自動運転の進歩により高齢者や障害者が自由に移動できる社会、交通事故のない安全・安心な社会が望ましい。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・ 住民主体で地域交通を運営する。
- ・ 自動運転車や新たな移動手段も活用しつつ、地域の足である公共交通も利用する。
- ・ コミュニティバスなどの地域交通を維持させる。 など

(西播磨の課題)

18 買い物・交通等生活基盤の確保

目標像 15 安心できる健康・福祉・地域医療のまち

(取組の方向性)

誰もが健康で元気に活躍でき、安心して暮らし続けられる地域の実現に向け、一人ひとりが日頃から健康づくりの意識を高めるとともに、地域医療体制の充実に取組み、誰もが住み慣れた地域で適切な医療・介護サービスが受けられる地域をめざそう。

〈主な県民意見〉

- ・産婦人科等医療体制の充実は、住居選びの大きなポイントになる。
- ・老々介護等、要介護者のいる世帯の女性に負担がかかっている。介護は先が見えない不安があり、女性が働くことを委縮させている原因の一つ。女性が家庭に埋もれず、自分の力を社会に還元させるべく活躍するには、介護など福祉の充実が必要。
- ・地域医療の充実強化のための医療従事者の確保が必要。
- ・地域において急性期から、回復期、慢性期、在宅医療、介護に至るまで切れ目のない医療・介護サービスを提供できる体制が望ましい。
- ・遠隔手術やオンライン診療の整備による過疎地の医療不安の緩和。ICTを活用した医療介護の連携システム。
- ・医療が容易にできる環境づくり。先進技術を駆使した医療体制の充実、働き方の充実等、利便性と安全性が向上し先進技術により地域の不安が解消されてほしい。

〈県民による取組例（県民意見から抜粋）〉

- ・医療機関の適切な利用を啓発する。
- ・医療機関や福祉・介護施設の相互連携により、一人ひとりのニーズに対応した医療・介護サービスを充実させる。
- ・医療機関や福祉・介護施設と地域住民との相互交流を促進させる。
- ・在宅医療を地域ぐるみで支える環境をつくる。
- ・在宅での人とのふれあいを重視した終末期の環境づくりに取り組む。
- ・日頃から高齢者と関わりを持ち、認知症の早期発見、治療につなげる。
- ・元気高齢者も地域の介護支援を担う。
- ・健康づくり教室を実施する。 など

(西播磨の課題)

19 医療・介護体制の確保

目標像 16 防災力の高いまち

(取組の方向性)

地震、津波、豪雨等の自然災害に強い社会基盤を整備するとともに、一人ひとりが防災についての高い意識を持ちながら、共助による地域防災力を高め、災害に強い安全安心な地域をつくろう。

〈主な県民意見〉

- ・高潮対策について、沿岸の防潮堤を一度に上げることは困難なため、高潮が発生すると高いところに逃げるといった危機意識を個人が持つように、もっと啓発していく必要がある。
 - ・企業の事業継続の観点からも高潮対策は急務で、高潮に強いまちづくりを進めていく必要がある。
 - ・共助による地域防災力の強化。
 - ・災害に強いインフラ整備とともに、事前に備える体制づくりや個人の危機意識を向上させる取り組み。
 - ・自然災害が増えている中で、特に防災に関する体制づくりが必要であり、企業においては同時にBCP*対策が必要。
- ※ BCP (事業継続計画) は、企業が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合に事業資産の損害を最小限にとどめ、事業の継続あるいは早期復旧が可能となるように平常時の行動や緊急時の対応を定めた計画。
- ・災害に強い森づくり。

〈県民による取組例 (県民意見から抜粋)〉

- ・家族で防災意識を共有しておく。
- ・家具の固定や非常持ち出し袋の常備など個人でできる災害への備えを進める。
- ・自主防災組織の活動を充実させる。
- ・いざというときに必要な地域・人の情報を把握しておく。
- ・高齢者・障がい者などの災害弱者への情報提供や避難支援を行う。
- ・地域で自主的な防災訓練やワークショップを実施する。
- ・地域ぐるみで地域の人を守る集落の防災計画や防災ハートブックを作る。
- ・次代の防災活動を担う若者の防災意識を醸成する。 など

(西播磨の課題)

20 災害に対する備え